



「不易と流行」

校長 久慈 隆正

今年度も本校の教育活動に対し、様々な御支援を頂きありがとうございました。

3年にも及ぶコロナによる活動制限も緩和され、今年度は様々な活動が行われました。単にコロナ以前に戻すのではなく、生徒・職員は新たな視点で何をしたいか、何をすればよいのかなどを一生懸命に考え、授業や生徒会活動、部活動に全力で取り組んでくれました。そして行事や大会、コンクール等での生徒の生き生きとした姿が見られました。

新屋地区での本校生徒の活動を挙げると、「新屋駅前ツーロック運動」「日吉神社山王祭」「栗田カップ」「栗田祭」「ももさだ海岸清掃」「雄物川中洲清掃」「新屋地区清掃」などがありました。

校内での活動を挙げると、進路指導関係では、生徒たちの進路選択の多様性とそれを支える学校の取組があります。具体的には、3年生は夏休み前から始まる専門学校のアオ入試から始まり、9月の一般就職・公務員試験、大学の総合型選抜、その後の推薦入試、1月の共通テスト、一般入試、2月の前期試験、3月の中期試験、後期試験と長い期間続いています。高校入試と違い、様々な進路選択があり、不安もあったかと思いますが、最後まで本当に頑張ったと思います。

部活動においては、団体、個人とも全国大会や東北大会へ出場した部活動が多い一年でした。特に、バドミントン部は6年ぶりの団体でのインターハイ出場、弓道部は11月の東北大会女子団体が優勝、ソフトボール部は県民体育大会で優勝しました。

他にも今年度新たな取組として、新屋高校SCCプロジェクト、デジタル探究コースの新設、三菱みらい育成財団からの助成、クラウドファンディングによるSDGsボードゲームの制作、東京大学学びのイノベーション・プラットフォームへの会員登録などがありました。この他の活動についても本校HPで紹介しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

話は変わりますが、教育における「不易」と「流行」という言葉があります。同じような言葉で、「継承」と「伝統」という言葉がありますが、「不易≒継承」、「流行≒伝統」だと考えます。(注:≒ほぼ等しい)。「継承」とは変わらず受け継ぐことです。本校が継承してきたもの、それは、「自尊・自知・自制」の精神です。私たちは、この精神を胸に、常に自ら考え、行動し、他者と協力しながら、社会に貢献できる人材の育成を行っております。一方、「伝統」とは、常に挑戦し、変わり続けることにあります。創立以来、地域社会に貢献できる人材を育成するため、時代の変化に応じて教育内容やカリキュラムを改革してきました。

本校は来年度、10月5日に創立40周年記念式典を行います。40年という歳月は、一瞬にして過ぎ去ったようにも思えますが、同時に、長い年月をかけて積み重ねてきた歴史と伝統の重みを、深く感じています。引き続き、「不易と流行」「継承と伝統」を考えながら、今後も地域に根ざした学校として、地域に貢献できるよう、励んでいきます。今後も皆様の変わらぬご支援をお願いいたします。



「地域に支えられて」

3年部主任 白沢 充

去る3月1日、153名の3年生が無事に卒業しました。この3年間、多くの地域の皆様に支えられ、心より感謝申し上げます。卒業した学年では、総合的な探究の時間において、「地域を知る」「地域で活動する」「地域に貢献する」というテーマに沿って、3年間にわたり探究活動を行いました。その結果、新屋地区に対する理解が深まり、地域の魅力を再発見することができました。また、教養コースの「地域コミュニケーション」や「キャリアプランニング」の授業では、地域の方々に講師としてお越しいただきました。新屋海浜公園でのゴミ拾いボランティアや地域の清掃活動、日吉神社山王祭、新屋雪まつりなど、多くの行事に参加し、地域の皆様との交流を深めることができました。これらの経験は、生徒たちの人格形成に非常に有益であったと考えます。生徒たちは地域の皆様との関わりから学んだことを社会で活かし、自らの成長につなげていくでしょう。地元を離れる生徒も多くいますが、将来、新屋地区に恩返しできるような人材に成長してほしいと願っています。



「今年度の進路決定状況」

進路指導主事 岸 由美

【就職】就職を希望する生徒1人あたりの求人数を示す求人倍率は、全国平均で3.52倍、秋田県内で4.12倍と、統計を取り始めた昭和60年以降最も高くなりました。厚生労働省は、求人倍率が過去最高になったことについて、「コロナ禍前よりも企業の求人数が増え、人手不足の基調が強まる一方で、進学率の高まりなどから就職希望者が減ったことが要因として考えられる」としています。

【進学】大学入学共通テストの出願者は39名でした。総合型選抜、学校推薦型選抜に挑戦する生徒が増え、12月までに進路を決める生徒が増えています。一方で、一般入試に挑戦し、国公立大学に合格した生徒もいます。最後まで覚悟を決めて集中して学習に取り組んだ成果です。

	合計	進学				就職		未定
		国公立大	私大	短大	専門学校	民間	公務員	
現3年生	153	13	51	18	44	16	7	4
去年同期	167	16	45	14	56	24	5	7

「学校保健委員会報告」

保健教育相談部主任 大関 由理

1月31日(水)、本校会議室において、学校保健委員会を開催しました。

校長挨拶の後、豊嶋養護教諭から、ここ2～3年で、肥満傾向の生徒の割合が増加していたが、今年度は減少したこと、本校ではコロナが8月に、インフルエンザが11月に流行していること、秋の保健室利用者が激増していること等が報告されました。

学校薬剤師の島田茉侑先生からは、水質検査・照度検査結果に問題はないが、CO₂濃度検査に関しては、暖房器具使用時、授業序盤から高い値を示し、換気をしないと15分で基準値を超えてしまうため、冬期間でも換気が必要であるというお話がありました。

歯科医の佐々木大輔先生からは、本校生徒の口内環境は概ね良好であること、これは、小中学校で実施しているフッ化物洗口の効果であり、大人になっても、う歯になりにくいとの説明がありました。

内科医の木村衛先生からは、インフルエンザが正月以降増加していること、コロナに関しては、変異型の流行傾向にあり、気を緩めることなく、手洗い・うがい・マスクの着用といった基本的な感染症対策をしっかりしてほしい、何よりも普段から規則正しい生活を心がけてほしいとのお話がありました。

委員会で話し合われたことをこれからの学校保健活動の参考にしたいと思います。

トピック ～新高生の活躍～

今年度後半も、部活動や行事など様々な場面で新高生の活躍が見られました。詳細はホームページに掲載しておりますので、是非ご覧ください。

女子弓道部

東北選抜大会・秋田県冬季大会で
団体優勝を果たし、東日本大会へ

(コメント：弓道部キャプテン 佐藤志津)

弓道部は、普段から礼儀・感謝の気持ちを大切にし、声を掛け合ったり教え合ったりしながら、良い雰囲気を保ち、部員全体で高め合っていくことを心がけて練習に励んでいます。先日の東北大会・冬季大会では、緊張感もありましたが、自分たちの練習の成果が出せたと思います。落ち着いて試合に臨むことの大切さを改めて感じました。

弓道は、集中力・忍耐力が身に付き、努力の成果が的中として実感できるので、やっています。これからも鍛錬を重ね、「全国制覇」を目標に活動していきます。応援よろしくお願ひします。



秋田県高校生探究発表会

秋田の未来賞 受賞
テーマ「少子高齢化地域での保育の質」
～ジェンダーフリー教育～
大橋陽菜子・富樫芽衣・福島乙花

(コメント：福島乙花)

私たちは、秋田の少子化、全国トップレベルの学力、世界の課題であるジェンダーの3つの観点から、秋田の教育や保育のあり方について探究活動を行ってきました。その成果を今回大勢の前でプレゼンテーションすることになり、メンバー3人で討論を重ねてきました。当日は、質疑応答の時間もあり、審査員の方々からの質問に答えるのが難しかったです。自分たちのアイデアを大勢の前で発表できたことは良い経験になったし、楽しかったです。探究活動を通して、情報を収集してまとめる力、コミュニケーション力、発想力等が身についたと思います。この力を今後活かしていきたいと思っています。